

## 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	文学部	身分	准教授
氏名	横山佐紀		
NAME	YOKOYAMA Saki		

## 1. 研究課題

（和文）モノと記憶—地域ミュージアムにおける回想法の可能性

（英文）Object and Memory:

## 2. 研究期間

2年間（ 2018・2019 年度）

## 3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）本研究は、近年、国内外のミュージアムにおいておもに高齢者を対象として行なわれている「回想法」の理論や実践例を検証し、モノがいかにして個人の記憶を呼び起こすな場となりえるのかを検討することを目的とする。2018年度は、回想法に取り組んでいる北名古屋市昭和日常博物館の実践報告など文献渉猟を中心に進め、2019年度は海外の事例調査を行った。2019年度に調査を行ったのは、アムステルダムの True Doors、オックスフォードのオックスフォード博物館である。True Doors は、高齢者向けケア・ホームの画一的なドアに、実際に一般の住宅で使われているドアを撮影した写真を実物大のステッカーとし、これを貼ることで居室のドアを個性化し、かつ、居住者の思い出（どのドアのステッカーを選ぶかは居住者や、その人をよく知る家族やスタッフに任されている）を引き出すプロジェクトを行っている。担当者の Marieke van Diepen にインタビューを行い、同時に True Doors が行われている施設を案内してもらった。オックスフォード博物館は、高齢者を対象に、思い出や過去の経験を語り合う Memory Lane というプログラムを行っている。現在、博物館は改装中であるが、担当学芸員とコンタクトをとりプログラムの目的、計画などを調査した。また、過去のプログラムの記録（プログラム中の会話が記録された CD）が収蔵されているオックスフォードシャー州歴史センターを訪問し、10点ほどを聴取し記録を確認した。これらから、モノを通じて記憶が蓄積され語られていくこと、そのようにして語られた記憶が記録され、時にミュージアムの展示に活用されて地域に還元されていることが明らかとなった。

（英文）

The purpose of this study is to examine how object preserves and forms personal memory by focusing on an art project and education program for elder people at the public museum. As a case study, the True Doors (art project) in Amsterdam and Memory Lane program at Oxford Museum were researched by interviewing project director and curator of each organization.